第16号
2015 VOL.6
隔月誌
平成27年11月発行

かなえるレター

かなえるリハビリ訪問看護ステーション



今月の表紙
門真市
塚本　芳彰さま
作品　「川柳」

担当スタッフより

若い頃から写真を撮りながら歩くのが大好きな塚本様の作品です。歩きにくさも忘れるくらいのいいお天気の日に、ふと思いついた「リハ散歩」という言葉を、川柳にしてくださいました。

かなえるリハビリ訪問看護ステーション

ご利用者数　H27/10/19 時点
介護保険 760 名　その他　8 名
医療保険 315 名　計 1083 名　社員数 83 名

かなえるリハビリ訪問看護ステーション都

ご利用者数　H27/10/19 時点
介護保険 171 名　その他　4 名
医療保険 20 名　計 195 名　社員数 16 名

ご利用者からの投稿募集



かなえるレターではご利用者の投稿を募集しています。あなたの作品をこの紙面で発表してみませんか？詳細は郵送、FAX、メール、または、訪問スタッフまでお問い合わせ下さい。あなたの投稿をお待ちしております。

かなえるリハビリ
訪問看護ステーション
〒550-0015
大阪市西区南堀江 1-16-15
名城ビル 4 階 D 号室

Tel　06-6531-3500
Fax　06-6531-3510

かなえるリハビリ
訪問看護ステーション都
〒604-8371
京都市中京区
御池通神泉苑西入
神泉苑町 1-11　コマ・ビル 3 階
Tel　075-803-0536
Fax　075-803-0537

かなえる　～ご利用者とともに～



作業療法士
下川　貴大

今回は当事業所のサービスを利用されている高校生のご利用者の紹介です。

濱田雄（たける）くんは現在、高校 1 年生です。先天性の疾患があり、体調や気候によって発作が起こり、日常生活等に不自由が生じている場面があります。訪問リハビリが始まった当初は、中学 3 年生でした。

今年の 4 月、大阪市内の公立高校に入学することが決まり、環境が大きく変わりました。新しい高校の先生方に、まずはたけるくん自身のことを正しく理解してもらう必要がありました。入学当初は学校側も手探りの状態で、授業の受け方にも四苦八苦していました。ご家族は非常に熱心に様々な提案を学校側にされましたが、中々前に進まないまま 1 学期が終わってしまいました。



宿題に取り組むたけるくん

訪問リハビリでも、どのようにすれば他の生徒と同じ様に学校生活に参加できるのか試行錯誤していました。お母さまから、「学校に行くこと自体はたけるもすごく楽しみにしています。」といった話を聞き、何とかその気持ちを大事にしたいと思いました。リハビリ場面やお母さまの情報から、たけるくんが①黒い画面や物を好むこと、②聴覚的な感覚には反応が良いこと、③結果がすぐに現れて分かりやすいもの　に興味を持っていることがわかりました。リハビリでも様々な活動に取り組み、たけるくんが興味を持っている iPad アプリ（黒板に字が書けるもの）を導入して今後のコミュニケーションや字の理解へと繋がるように使い方を練習しました。

夏休みに入ってから、学校からもらったプリントの中に、夏休みの宿題がありました。先程のアプリを使えば、夏休みの宿題ができるのでは？とお母さまと話し合い、その日から宿題に取り組みました。リハビリがない日は、ご家族と一緒に取り組み、作成したものは画像にして保存し、印刷することで学校に提出しました。宿題に毎日取り組むことで、たけるくん自身の活動にも変化があらわれ、自主的に iPad に手を伸ばし、綺麗に字を書くために人差し指だけを伸ばしたり、アプリを開けば、何かを書く活動を 1 人で実施できたりするようになりました。

ある日、学校側とお母さまの間でリハビリの内容について共有したところ、教頭先生と担任の先生がリハビリの時間に見学に来られました。たけるくんが集中して課題に取り組むための環境設定や関わり方などを共有でき、今後に繋げていければと話しました。そして、現在 2 学期、たけるくんは学校に通っています。宿題の成果、先生方との情報共有ができたことも重なり、少しずつ iPad での活動が広がっているようです。授業担当の先生によっては授業に使用したり、テストの回答に用いたりと先生方にもご協力いただけています。これからももっと先生方と情報共有をして、たけるくんが充実した学生生活が送れるように支援していきます。





自主的に iPad に手を伸ばしたたけるくんとその作品



ご利用者投稿のコーナー



大阪市　西区　萬谷　靖子さま
作品「絵手紙」

（担当スタッフより）
７月でリハビリを卒業された方から、絵手紙が届きました。卒業されてからも、趣味を続けられ、積極的に頑張られていることに感動し、私自身も元気をいただきました！

チワワの瑛太くん





大阪市　西区
池田　節子さま
作品「マフラー」

（ご利用者コメント）
私にでもできたんだって思いました。
最後まで続けてよかったわ。

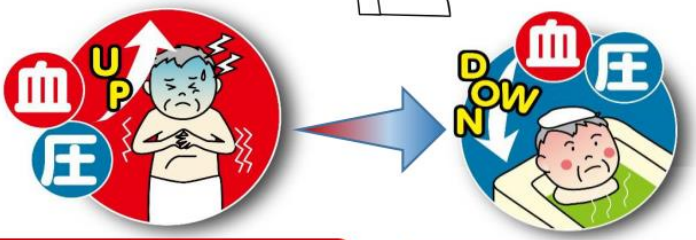
リハビリまめ知識

ヒートショックについて



理学療法士
水上　香

ヒートショックとは、室温の変化によって血圧が急激に上昇したり下降したり、脈拍が早くなったりする状態のことをいいます。ヒートショックが起こりやすいといわれる場所は浴室・トイレ・洗面所です。全国でヒートショックで亡くなる人は、実に交通事故死者数の３倍とも言われています。温度差を最小限にして、心臓に負担がかからないように日頃から気を付けましょう。



冬の寒い脱衣所や寒い浴室
（血管が縮んで血圧が上がる）

熱めの湯に浸かって温まる
（血管が広がり血圧が下がる）

なりやすい人

①65 歳以上である
②高血圧や糖尿病・動脈硬化の方
③肥満気味の人や睡眠時無呼吸症候群のような呼吸に問題がある方
④不整脈がある方
⑤自宅の浴室には暖房設備がない
⑥熱いお風呂が大好き
⑦お酒を飲んでからお風呂に入ることがある

対策

①脱衣所・浴室を温める
（シャワーでお湯をはる、暖房器具を置く）
②お湯の温度は 41℃以下にする
③かかり湯をする
④家に誰かがいる時間に入る
⑤寒い日は日没前にお風呂に入る
⑥食後、飲酒後は入浴を避ける

かなえる
TOPIC

「認知症を持つ方と その家族に対する在宅での支援の在り方」



9 月 27 日（日）大阪市内にて教育研修部主催の認知症勉強会を開催しました。佛教大学保健医療技術学部作業療法学科准教授の苅山和生先生を講師にお招きし、「認知症を持つ方とその家族に対する在宅支援の在り方」をテーマに、約 2 時間に渡りご講義頂きました。当日は、当事業所社員、他事業所の看護師や療法士の方もご参加頂き、苅山先生のご講義にみな熱心に聞き入っていました。

今回のご講義は「認知症の原因」「認知症の人から見た世界とは」「家族の苦悩と光」「認知症カフェの取り組み」「京都式認知症ケアパスの取り組み」「在宅支援の認知症リハとは」と非常に多岐に渡った内容となっていました。

認知症を発症した方が実際にはどのような心理状態にあるのか、症例を通じて考えるセクションもあり、参加者はそれぞれ一生懸命に想像を働かせていました。苅山先生からは本講義を通じて、認知症を持つ方やそのご家族の不安を和らげ安心を探すこと、そして「本人が主体であり本人のこうありたい」という目的に沿った支援を行うことの重要性を教えて頂きました。また、「専門職である前に医療者として」「さらに医療者である前に人として」ご本人・ご家族と向き合うことが大切であるとも話されていました。このことを始め、私たち医療者が、日々のご利用者やご家族との関わりの中で、何に重きを置いて向き合っていけば良いかを考えるためのヒントが随所に散りばめられていました。

参加者それぞれが講義を受けて感じたことを、今後の訪問業務に活かし、ご本人・ご家族が安心を得られるような支援をしていかなければならないと思います。そして、認知症を持つ方とそのご家族が少しでも住みやすい社会を実現するために、私たち医療者が早期から関わり、地域の様々な職種の方と連携を取って支援を行っていけるよう会社としても取り組んでいこうと考えております。

教育研修部　佐々木　広夫







朝晩は冷え込み、冬の訪れを身に染みて感じる季節となりました。みなさまいかがお過ごしでしょうか。今号のかなえるレターでは、ご利用者との関わりや外部講師を招いての研修についての記事を掲載しました。社員一同自己研鑽に努めております。

また、今年のかなえるレターの発刊は今号で最後となります。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。来年もより良い情報を皆様にお届けできるよう精進して参ります。

編集者　下川　貴大